

夢は始まったばかり

校 長 武井 正明

肌寒い日曜日の朝となった。しかし、見附中体育館は静かな熱気に包まれていた。

我が吉田中女子バレー部チームは、3位リーグ戦に喰い込み、上位2校の切符を賭けて栄中、見附中と争う権利を得た。これだけでも素晴らしい進化だ。

朝の部員たちの表情は、皆いつも通りの、リラックスした笑顔。

しかし、やはりステージが上がるということは互いに一つのヤマを越えてきた者同士、緊張感が違ってくる。初戦の相手は見附中。何としてもスタートで勢いづけたい。

試合が始まると、急に選手たちの表情や動きが硬くなる。最初の一步を躊躇する。スムーズに踏み出せない。先日は、あれほどよく決まっていたサーブがネットを越えない。そう、これがプレッシャーだ。君たちはもう一段階上のステージに来たってことだ。

君たちは、本当にいい経験をしている。上がってこなければ見えない景色だから。

第1セットは、全く良いところなく14-25で落とした。そこへ海藤先生の檄が飛ぶ。「いつも通り来た球を打って返す。やってきたことをしっかりやるだけ」

先日は僅か1セットしか観られなくてわからなかった。今日は見える。1番キャプテンの存在感とリーダーシップが、キラキラ光っている。

苦しい状況でも、笑顔でチームを鼓舞する。時には背中を叩いたり軽口で和ませたり。そして勝負所のサーブは、冷静に視点を定め、集中し、力強い球をコートに打ち込む。

その積み重ねで第2セットを取った。いよいよ第3セット15点勝負に持ち込んだ。

私が嬉しかったのは、これを決めれば勝利という場面で6番が打ち込んだサーブだ。

全然球を置きに行っていない。保険など掛けず、ライン際を狙って、深く、強気に打ち込んでいったサーブに、大きな可能性を見た。

惜しくもサーブはラインを割り、その後、粘り切れず、悔しい敗戦となった。

続く栄中戦。頑張ったが、11-25、15-25で0-2のストレート負けとなった。

しかし、5番や2番に繋ぐ攻撃の形が1試合目よりも鮮明に見えた試合だった。

試合後、涙のキャプテンは私に「ごめんなさい」と言った。朝の時点では「ここまで来られてOK、勝てたらラッキー」程度の気持ちだったかもしれない。でも実際戦ってみて、それは意外と手の届くところまでできていた。この悔し涙は、その第一歩だと思う。

君たちのビクトリーロードは、今始まったばかり。私は観ているだけでハラハラドキドキ、一緒にプレーしているような、ワクワクの時間を共有させてもらいました。

爽やかに、一生懸命頑張る君たちを、これからも追い掛けさせていただきます!!